

合唱練習で子供を動かす

(向山洋一「子供を動かす法則」より)

学年内打合せ資料(清田)

子供たちを動かすには、法則があります。意図的に「法則」を学び、意識的に使って「使いこなせる技能」を身に付けなければいけません。合唱パート練習、式の全体練習などで必要な力です。教師に力がついているから「教え伝える」ことができます。リーダー育成の一番の肝は教師の指導力の向上です！(楽しく伸ばしましょう！！)

たった一つの法則

『最後の行動まで示してから、子供を動かせ』

5つの補足

- ① 何をするのかを端的に説明せよ。
- ② どれだけやるのか具体的に示せ。
- ③ 終わったら何をするのかを指示せよ。
- ④ 質問は一通り説明してから受けよ。
- ⑤ 個別の場面を取り上げてほめよ。

子供を動かすために① → 「つくる」:メニュー・セリフ・役割

0 並ばせる・号令 「これから〇〇パートの練習を始めます。気を付け、礼」

1 始めの言葉 : 「始めのことば。〇〇さん。お願いします。」

「今日の練習の目標は～です。」

「練習では〇回歌います。最初は～、次は～、最後は合唱のCDを流して歌います」

「途中で、お互いに聴きあいます。最初に〇組が歌い△組が座って聞きます。そのあとは逆です」

「今日は(声の大きさ・ハーモニー・出だしなど)にこだわって練習しましょう」

2 練習開始

練習の基本パターン

『一回歌う→座らせる→振り返り→〇〇からコメント→次へ』

例

一回歌う:座らせる→振り返りをさせる 30 秒くらい→文化委員コメント

一回歌う:座らせる→振り返りをさせる 30 秒くらい→PL コメント

一回歌う:座らせる→振り返りをさせる 30 秒くらい→学級委員コメント

一回歌う:座らせる→振り返りをさせる 30 秒くらい→群読リーダーコメント

一回歌う:座らせる→振り返りをさせる 30 秒くらい→文化委員コメント

※ 練習回数 = 『練習時間 ÷ (合唱曲の長さ + 振り返り + コメント)』

3 講評 : 「講評。〇〇先生お願いします。」

4 終わりの言葉

子供を動かすために② → 「段取り・もの」をつくる・共有する
逆算する

2~3日前:段取りを作る→学年教師で確認する→生徒用のプリントを作成しておく

1日前 :関係の生徒を集める・プリントを渡す

↓

進め方を説明する・やらせる(教師が「仕切る」イメージを持っていること)

当日 :朝の SHR で担当生徒から「練習がある」ことなどを伝える

↓

文化委員など仕切った生徒を褒める。+振り返り →次回で改善へ